

「石神井川下流の流路変遷 (4)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka



(国土地理院航空写真／1948 年／昭和 23 年)

現在の「音無さくら緑地」のある、石神井川の蛇行部（屈曲部）を拡大してみると、昭和 23 年当時の屈曲部の内部（半島部）には家屋は 1 軒もなく、田んぼ、または畑が広がっていたとわかります。南側にも家屋はまばらで、まだこのあたりは住宅化が進んでいなかったようです。そんな中に、石神井川がゆったりと流れていたのは、どんな風景だったのでしょうか？



(国土地理院航空写真／1963 年／昭和 38 年)

その 15 年後の昭和 38 年には、屈曲部の周囲は住宅で埋め尽くされています。周辺だけでなく、屈曲部内部にも少し大きな住宅が見えます。耕作地だった土地の地主が、自分の家を建てたのかも知れません。わずか 15 年で北区の滝野川は急激な宅地化が進んだことがわかります。しかし当の石神井川は、まだ自然の姿のままで、蛇行がきれいに残っています。



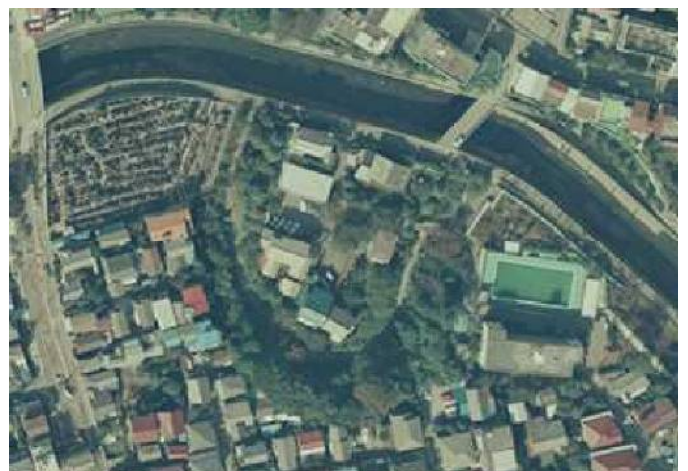
(国土地理院航空写真／1975 年／昭和 50 年)

昭和 50 年になると、いよいよ石神井川の河川改修工事が始まっています。すでに直線的で太い流路が完成し、仮設の築堤も見えます。昭和 38 年にあった新しい流路付近の家屋は、移転したのでしょうか。



(国土地理院航空写真／1979 年／昭和 54 年)

昭和 54 年には工事が完全に終わっていて、新しい石神井川に生まれ変わっています。しかし、旧流路跡はまだ更地に近く、公園はできていないようです。



(国土地理院航空写真／1984 年／昭和 59 年)

昭和 59 年には緑道化が進み、旧流路跡も樹木で覆われ始めています。現地に行ってみることにしました。